

児童の他律的セルフ・エスティームとストレスの関連 —全体およびコンピテンス領域別の他律的セルフ・エスティームに着目した横断的検討—

○賀屋育子 (兵庫教育大学)
内田香奈子 (鳴門教育大学)

横嶋敬行 (鳴門教育大学)
山崎勝之 (鳴門教育大学)

キーワード：他律的セルフ・エスティーム，児童，ストレス

目 的

近年，セルフ・エスティーム (Self-Esteem: SE) を適応的な面と不適応的な面に弁別して捉える研究が行われている。山崎他 (2017) は適応的な面を自律的 SE, 不適応的な面を他律的 SE と提唱し，研究を展開している。他律的 SE は外的な達成基準や他者との比較に依存して高まる SE を指す。この SE には全体と領域 (特定の領域で特化して高まる) の観点があり，他律的 SE の全体的な特徴を測定する尺度と (賀屋他, 2018)，学校教育で扱われるコンピテンス領域の他律的 SE を測定する尺度が作成されている (賀屋他, 印刷中)。

子どもたちの学校教育の学習活動の過程で起こる他者との比較や他者が設定する基準との比較によって高められる全体およびコンピテンス領域別の他律的 SE は，子どもたちのストレスを高めている可能性が懸念される。そこで本研究では，全体および領域別の他律的 SE がストレス事象に及ぼす影響を検討する。

方 法

調査時期・調査対象 調査は A 県の小学校 (3 校) の 4 から 6 年生と，B 県の小学校 (1 校) の 5 年生から 6 年生の計 592 名 (男子 291 名，女子 301 名) を対象に行った。

測定方法 全体的な他律的 SE を測定するために，児童用他律的 SE 尺度 (賀屋他, 2018) を使用した。「わたし (ぼく) は，友だちよりも，よいところを多くもっている」など，7 項目で構成されている。評定は，「1. まったくあてはまらない」から「4. とてもよくあてはまる」の 4 件法でたずねた。また，領域別の他律的 SE を測定するために，コンピテンス領域別他律的 SE 尺度 (賀屋他, 印刷中) を使用した。全体的な他律的 SE の尺度と

同様の項目を勉強，運動，芸術・技術の 3 領域ごとにたずねる全 21 項目から構成される。評定も同様に 4 件法でたずねた。児童の学校生活におけるストレスを測定するために，心理的ストレス尺度 (長根, 1991) を使用した。classmate (対人関係に対するストレス), presentation (人前でのパフォーマンスに対するストレス), achievement (学業成績など評価に対するストレス), failure (失敗に対するストレス) の 4 因子，全 20 項目で構成されている。評定は，「1. いいえ」から「4. はい」の 4 件法でたずねた。

結果と考察

すべての分析は全体および男女別で検討を行った。まず，各変数の相関係数を算出した。全体的な他律的 SE に注目すると，classmate と failure に有意な正の相関，presentation には全体と女子において有意な負の相関がみられた。次に各ストレスを目的変数，領域別 (勉強，運動，芸術・技術) の他律的 SE を説明変数として重回帰分析を行った。その結果，classmate の全体と男女，presentation と achievement の全体と女子，failure の全体と男子において重決定係数が有意であった。標準回帰係数をみると，classmate には勉強と芸術・技術領域が有意な正の影響を与える一方で，presentation や achievement には勉強領域が有意な負の，芸術・技術領域が正の影響を与えることが示された。failure には勉強領域が有意な正の影響を与える一方で，運動領域は有意な負の影響を与えていることが示された。これらの結果から，他律的 SE のストレスに対する影響は正負の両方の関係がみられ，他律的 SE がストレスを軽減する一方で，別のストレスを高めてしまう可能性が示された。

Table 1 全体・男女における各変数の相関係数ならびにコンピテンス領域別の他律的 SE を説明変数，心理的ストレス尺度の各変数を従属変数とした重回帰分析の結果

	説明変数 (他律的 SE)	classmate				presentation				achievement				failure			
		r	β	t 値	R ²	r	β	t 値	R ²	r	β	t 値	R ²	r	β	t 値	R ²
全体 (n=592)	全体他律	.22 **	—	—	—	-.12 **	—	—	—	.02	—	—	—	.06	—	—	—
	勉強	.22 **	.18 ***	3.93	—	-.18 **	-.23 ***	-5.01	—	-.07	-.12 *	-2.53	—	.11 **	.18 *	2.54	—
	運動	.11 *	.01	.23	.06 ***	-.05	.01	.15	.05 ***	.01	.03	.69	.01 *	-.05	-.18 **	-2.65	.03 **
	芸術	.18 **	.11 **	2.58	—	.03	.11 **	2.52	—	.06	.10 *	2.15	—	.11 **	.10 *	2.15	—
男子 (n=291)	全体他律	.27 **	—	—	—	-.06	—	—	—	.09	—	—	—	.12 *	—	—	—
	勉強	.28 **	.27 ***	4.09	—	-.10	-.09	-1.32	—	.00	-.02	-.22	—	.14 *	.20 **	3.02	—
	運動	.16	.06	.87	.08 ***	-.05	.00	-.01	.01	.02	.02	.29	.00	-.05	-.13 *	-2.02	.04 *
	芸術	.09	-.03	-.49	—	-.05	-.02	-.23	—	.03	.03	.44	—	.03	-.01	-.11	—
女子 (n=592)	全体他律	.25 **	—	—	—	-.11	—	—	—	.00	—	—	—	.06	—	—	—
	勉強	.23 **	.16 **	2.58	—	-.24 **	-.32 ***	-5.16	—	-.12 *	-.17 **	-2.73	—	.12 *	.08	1.24	—
	運動	.16 **	.08	1.36	.08 ***	.04	.10 †	1.68	.08 ***	.08	.11 †	1.76	.03 *	.02	-.03	-.50	.02 †
	芸術	.21 **	.13 *	2.01	—	.02	.12 †	1.89	—	.03	.07	1.09	—	.13 *	.11 †	1.74	—

β = 標準偏回帰係数，*** $p < .001$ ，** $p < .01$ ，* $p < .05$ ，† $p < .10$